

タモキシフェン錠「サワイ」の  
治療を受ける患者さんへ



監修

順天堂大学医学部 乳腺・内分泌外科 教授

齊藤 光江 先生

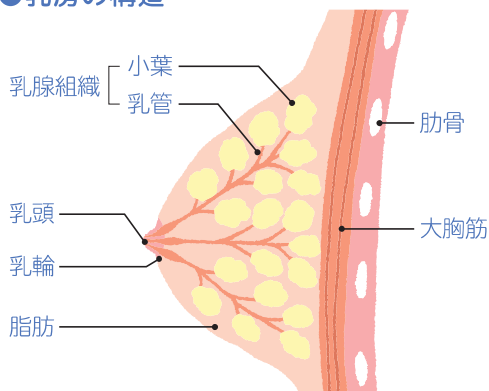
# 1 乳がんのホルモン療法

## 乳がんとは

乳がんは、乳房の乳汁分泌を行う乳腺組織にできる悪性の腫瘍のことです。

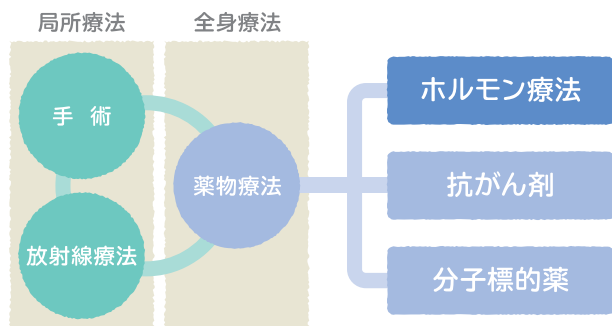
症状として、乳房のしこり、えくぼのようなくぼみ、まれに赤みが現れることがあります。

### ●乳房の構造



## 乳がんの治療とホルモン療法

治療法は主に局所療法（手術、放射線療法）と、全身療法（薬物療法）の2つがあります。このうち、薬物療法のひとつに**ホルモン療法**があります。手術ではとれない部位に飛び火したがん細胞を制圧するために行います。



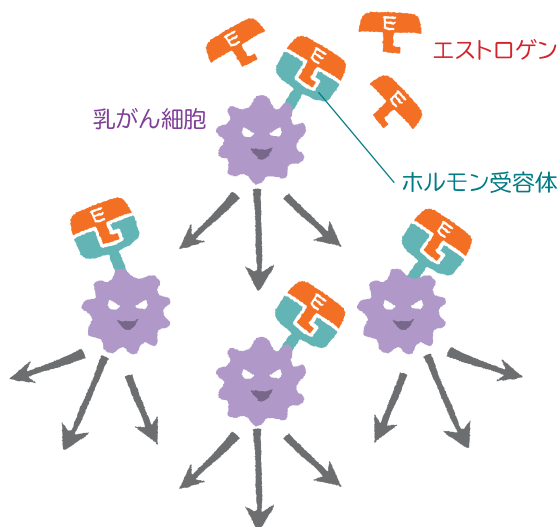
## ホルモン療法の作用

過半数の乳がんのがん細胞は、体内の女性ホルモン「エストロゲン」の影響を受けて、増殖が活発になります。エストロゲンが乳がん細胞上の特定の部位（ホルモン受容体）に結びつくことで、増殖のスイッチが入ります。

〈エストロゲンがないとき〉



〈エストロゲンがあるとき〉



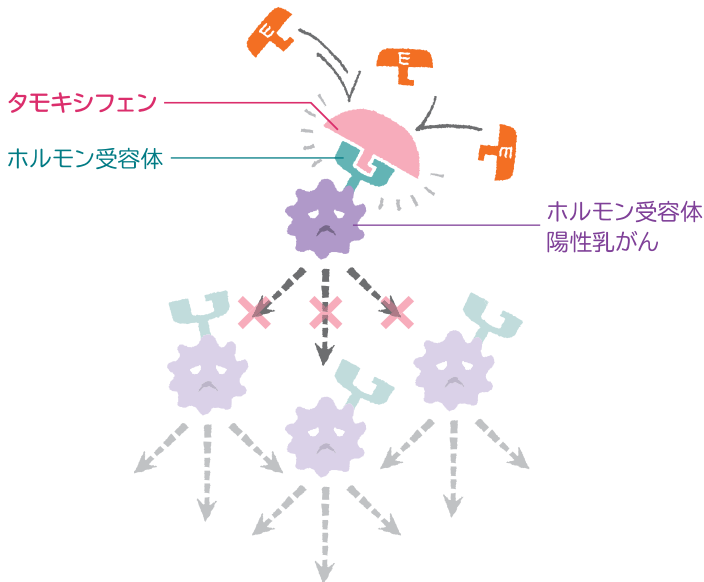
ホルモン療法では、エストロゲン自体を減らしたり、エストロゲンがホルモン受容体と結びつくのを防いだりすることで、乳がん細胞の増殖を抑えます。

また、閉経の前後でエストロゲンがつくられる場所が異なります。そのため、ホルモン療法で使われるお薬の中には、閉経の状況によって異なるものもあります。

## タモキシフェン錠「サワイ」とは

タモキシフェン錠「サワイ」（以下、タモキシフェン）はエストロゲンがホルモン受容体と結びつくのを防ぐお薬のひとつです。

ホルモン療法の多くは、閉経の前後で効果によって使用できるお薬は異なりますが、タモキシフェンはどちらでも使用できるお薬です。がんの転移の状況によって他のホルモン療法のお薬と併用することもあります。







タモキシフェンの服用は基本的には5年間、もしくは10年間続けられます。治療期間は、再発のリスクや副作用の程度を考慮して決められます。

# イ」について

## タモキシフェン錠「サワイ」の服用方法

1日1回、20mgが標準的な服用方法です。

お薬は、包装シートから取り出し、コップ1杯程度の水またはぬるま湯で服用してください。

タモキシフェン錠10mg 「サワイ」	タモキシフェン錠20mg 「サワイ」
	
	
1日2錠を1～2回に分けて 毎日服用します。	1日1錠を1回、 毎日服用します。

タモキシフェン錠「サワイ」には、10mg錠と20mg錠があります。  
患者さんの症状によって服用量が増えることがあります。

服用量や回数、時間は、必ず主治医の指示に従ってください。  
服用を中止、休薬されたい場合は、必ず主治医にご相談ください。

# 3

## 服用にあたっての注意

### 服用する前に

妊娠または妊娠している可能性のある人は服用しないでください。  
また、授乳中の服用もおやめください。

次のような方は、服用する前に主治医に相談してください。

- 現在服用しているお薬がある方（薬局で買ったお薬を含めて）
- 以前にお薬を服用して発疹やかゆみが出たことのある方
- 血液の病気になったことがある方や現在持っている方

### 服用中に

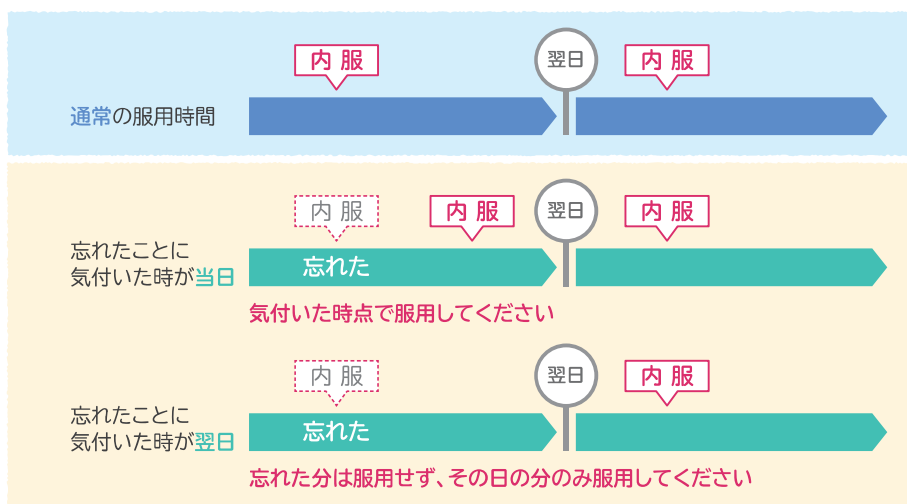
- このお薬を服用中は、ホルモン剤（ピルなど）以外の避妊方法を用いてください。
- このお薬を服用中に、他のお薬を新たに使用する場合は、必ず主治医または薬剤師に相談してください。
- 他の医療機関を受診する場合や薬局でお薬を買う場合は、タモキシフェン錠「サワイ」を服用していることを伝えてください。

### 保管方法

お薬は、光のあたらない涼しいところで、子どもの手の届かないように保管してください。

## お薬を服用し忘れた場合

飲み忘れに気が付いたときは、できるだけ早く服用してください。  
ただし、翌日気が付いた場合は1回分とばしてください。



2回分を1度に服用しないでください。

## 間違えて指示された量より多く飲んでしまった場合

すぐに体に大きな影響が出ることは少ないですが、早めに主治医または薬剤師にお知らせください。

# 4

## 副作用について

このお薬を服用中に以下の症状があらわれることがあります。症状のあらわれ方には個人差がありますが、気になる症状があらわれた場合には、主治医または薬剤師にすぐに相談してください。

### 卵巣への影響（更年期症状）

卵巣からの女性ホルモン（エストロゲン）の周期にも影響をあたえるため、更年期症状と同じような以下の症状が起こることがあります。

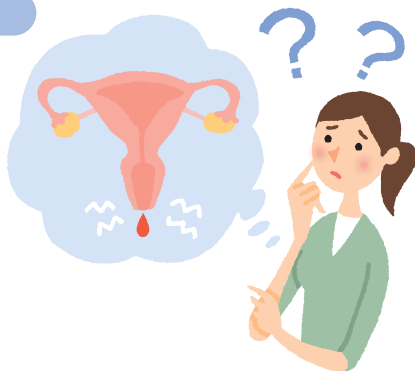
#### 顔がほてる、顔が赤くなる、汗が出る

体内のエストロゲン量が少なくなるために起こる副作用のひとつです。エストロゲンが減ると体温調節がうまくできなくなることがあり、ほてりやのぼせのような症状があらわれたり、発作的に汗をかきやすくなったりすることがあります。



#### 無月経・月経異常

タモキシフェンは二セモノの女性ホルモンですが、月経周期を制御している脳がホルモンと勘違いして卵巣への命令をさぼりがちになるため、生理が一時的に止まったり遅れたりすることがあります。タモキシフェンが、卵巣に直接影響をあたえるわけではありません。





## 子宮への影響

タモキシフェンの女性ホルモンに似た作用でおりものが増えることがあります。また、タモキシフェンによる治療は子宮内膜にも影響をあたえるとされています。長期にわたって服用すると子宮体がんの発生がわずかに増加するとの報告もあります。しかし、子宮体がんになる可能性はもともと0.3%程度あり、これを0.3%増加させると言われているので、乳がんの再発を予防する効果によるメリットの方が大きいと考えられています。

性器からの不正出血などの異常があらわれた場合はただちに婦人科を受診してください。

## その他の注意すべき副作用

- 頭痛、気分が落ち込む\*、めまい\*
- 脱毛
- 体重増加
- 吐き気・嘔吐・食欲不振・だるさ
- 視力の低下・物が見えにくい・目がかすむ
- ※ 息切れがする、息苦しい、咳が出る、発熱、のどの痛み
- ※ おなか・背中 of 急な痛み
- ※ 全身の発疹・発赤
- ※ 足の急な痛み

\*：医師や薬剤師に連絡してほしい症状    ※：極めてまれだが、緊急で連絡してほしい症状

これら以外の副作用があらわれる場合もありますので、気になる症状があらわれた際には、主治医または薬剤師にご相談ください。

# 5

## 治療中に気を付けたい

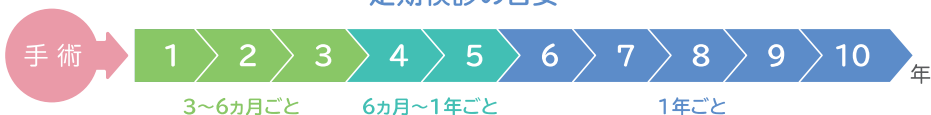
### 定期検診

定期検診の主な目的は、次の2つです。

- ①薬物療法の安全性・有効性の確認
- ②再発が無いかのチェック

問診、視触診など、必要な検査を受けることにより、これらの目的が達成できます。また、再発が生じた場合は、治療内容の変更が必要となります。

#### 定期検診の目安



### 再発について

再発には2種類あり、胸や周囲のリンパ節に起こる局所再発と、骨・肺・肝臓などに起こる転移再発があります。

局所再発の起こりやすさは、手術の方法によって異なります。皮膚・乳頭・乳輪を含めた、すべての乳房を切除する「全摘術」の後の再発はごくまれですが、乳房を部分的に切除し、がんを取り除く「部分切除術」の後は10%程度あると言われています。なお、手術後に新たながんが切除しなかった方の乳房にできる頻度は一般的には低いと言われています。転移再発については、1ヵ月以上続く背骨や腰の痛み、あるいは1ヵ月以上続く空咳などを見逃さず主治医に伝えることが大切です。残った乳房の検診は、生涯続けていくことが推奨されますが、転移再発は通常術後15年を過ぎて発症することはごくまれです。

## セルフチェック

乳房の健康を保つ意識を高め、再発や新たながんの早期発見につなげるために、セルフチェックを行いましょ。



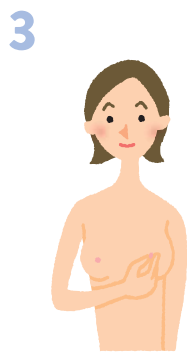
### 目で見て確かめる

鏡の前で両腕を挙げ、大きさの変化・形の異常、へこみ・赤みがないかチェックする。



### 全体を触って確かめる

石鹸などで手の滑りをよくしてから、乳房をくまなく触り、しこりの有無をチェックする。押しなでるように、指の腹で触る。



### 分泌物がないかチェック

左右の乳首をかるくつまんで、血液が出ないかチェックする。

# 治療中に気を付けたいこと

## 日常生活で

乳がんの手術後でも、基本的には手術前と変わらない生活を送ることができます。

再発のリスクを抑えるため、また、副作用症状を軽くするために、以下のことに注意してみましょう。

### 食事について

肥満の患者さんは乳がんの発症リスクが高いと言われています。栄養バランスの良い食事、適切なカロリー摂取を心がけて、肥満を避けることが大切です。

また、女性ホルモンの分泌量が下がると、骨密度が低下して骨折のリスクが高くなるとされています。丈夫な骨をつくるのに必要なカルシウム、ビタミンDといった栄養素を、意識して食事に取り入れてみましょう。



### 運動について

乳がんの再発リスクを低くするために、適度な運動が良いとされています。ストレッチやウォーキングなど、軽い運動を無理なく少しずつ続けるようにしましょう。

骨密度維持のためにもウォーキングや日光浴は良いことが知られています。手術をした側の腕には負担をかけすぎない運動が良いでしょう。



## 就労について

タモキシフェン錠「サワイ」でのホルモン療法は内服での治療となるので、数カ月に1度程度の通院で済みます。手術後の安静時期が終われば、ホルモン療法を行いながら仕事を続けていくことは可能な場合が多いです。ただし、更年期症状などの副作用があらわれる場合がありますので、注意が必要となります。

休暇の取り方、治療スケジュールに合わせた働き方など、仕事を続ける上での工夫については、職場の上司や産業医・産業保健師のみならず、主治医や病院の窓口にご相談してみましょう。最近では、患者さんの同意のもと両者が連携を取ることが推奨されています。また、全国のがん診療連携拠点病院等には、「がん相談支援センター」があります。どなたでも相談することができます。



# MEMO

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



Handwriting practice lines consisting of 18 horizontal blue lines with a wavy, dashed pattern.



医療機関名／連絡先



日本ジェネリック株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号